

神戸女子大学
神戸女子大学大学院
神戸女子短期大学
神戸女子大学教育センター



特集

神戸女子大学
ポートアイランドキャンパスに看護学部誕生

- 6 教育研究活動
- 12 学園トピックス
- 16 地域連携
- 17 大学連携
- 18 インフォメーション



神戸女子大学 ポートアイランドキャンパスに 看護学部誕生

学校法人行吉学園は、神戸女子大学に平成27年4月から看護学部を開設いたします。

本学園は70余年にわたり栄養、初等教育、福祉などの分野で、女性の特性を生かして、時代とともに社会が必要とする人材を育成してきました。これまでに培ってきた女子教育の実績と資源を生かし、看護師不足という社会的課題に応え、さらに積極的に地域に貢献するという観点から、看護学部を設置することになりました。



神戸女子大学 看護学部開設にあたって

神戸女子大学 学長 中島 實

神戸女子大学の母体であります行吉学園の歴史は、戦前の昭和15年に設置された「神戸新装女学院」にまで遡り、今年は学園創立から75年目を迎えることとなります。この間、神戸女子大学は「世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成する」ことを建学の精神として、昭和41年の家政学部開設に始まり、以降、文学部、健康福祉学部の3学部9学科、大学院は文学研究科、家政学研究科の2研究科6専攻、ならびに学校教育学専攻科を開設し、社会に貢献する

自立した女性の育成に努めてきました。

そして、奇しくも学園創立から75年の節目となる今年、平成27年4月より神戸女子大学の4番目の学部となる看護学部がポートアイランドキャンパスに開設されます。本学の目指す看護学部は、臨地実習や地域との連携を図ることで、患者さんや医療現場で関わる人々との温かな人間関係を築くことを主眼に置いています。また、管理栄養士や社会福祉士、介護福祉士などを養成する本学既存の学部や学科とも連携しながら幅広い知識と技術をもった実践力のある看護師、さらに「人の生きるチカラを支える」看護を実践できる専門性と相手を想う心を備えた看護師の育成を目指してまいります。

このたびの看護学部の設置により、神戸女子大学は4学部10学科の陣容を備えることとなります。開学以来、教養豊かで社会的に自立した有為な女性の育成に努め、時代とともにその翼を広げてきましたが、今後とも引き続き、この責務を果たすべく尽力していききたいと思います。

育成する人材及び教育目標

女性の可能性を拓く豊かな教養と深遠な知の獲得により、様々なコミュニティにおいて自らの役割を果たす判断力と実践力を身につけ、地域や社会の保健医療福祉の場において自立して活動できる看護の専門職を育成する。

看護学部は、「温かな心を育む教育を基盤として、変化する社会の健康ニーズにコミュニティの観点から柔軟に対応し、だれもが安全・安心・安寧に生活していける社会と人々の健康に積極的に関与していける自立した看護職を育成し、看護学の発展を通して、人類の福祉に貢献する」を教育理念としており、次の5つの教育目標を掲げて、教育課程を構想しました。

- 目標1 人や社会との対話により、看護の表現力を育みます。
- 目標2 人々や学問への真摯な向き合いから、看護の実践力を育みます。
- 目標3 固有の文化を尊重し、すこやかな社会を創造する人を育みます。
- 目標4 病む人に寄り添う、自立した看護の専門職を育みます。
- 目標5 生涯にわたって看護学を探究し続ける力を育みます。

看護学部の概要

学部学科:看護学部看護学科
 学 位:学士(看護学)
 入学定員:80名
 収容定員:320名
 必修資格:看護師国家試験受験資格
 選択資格:保健師国家試験受験資格(20名)
 助産師国家試験受験資格(8名)
 養護教諭一種免許状(80名)
 (助産師を選択した場合は、保健師、養護教諭一種免許状は選択できません)

看護学部 カリキュラム紹介

5つの教育目標を達成するため、全学共通教養科目により教養教育の充実を図るとともに、看護師等の基礎となる教育を充実させるために、看護基礎教育統合カリキュラムを用いて、看護師、保健師及び助産師の国家試験受験資格取得並びに養護教諭一種免許状取得を目指した専門科目を編成しました。

■ 全学共通教養科目・・・女性の可能性を拓く教養を身につける

基幹科目群(「基礎」、「女性」、「地域」科目群)、基礎科目群(語学科目・情報科目・ウェルネス科目)、一般科目群(基本的教養を様々な分野から学べる科目群)を配置し、自己の人間形成を図る土台を築き、科学的思考、倫理性、国際性を身につけた専門家になるための基礎力を培うことを目的とした教育課程を編成しています。

■ 専門科目・・・判断力と実践力を身につけ自立して活動できる人材の養成を目指して

科目の区分を看護の対象によって分けるのではなく、地域や社会の保健医療福祉システムの中で看護が提供される場を「コミュニティ」としてとらえ、その中にある病院と自宅、地域の保健医療福祉システムと連携・協働していける能力を育成することを目的に教育課程を編成しています。

「専門基礎科目」は、看護の基礎知識や周辺領域を習得する看護の導入部門として位置づけています。科学的思考力、コミュニケーション能力を高め、保健医療福祉と連携する能力を身につけます。

「看護専門分野」では、地域との関わりを重視した体系となっています。「コミュニティ・ケアシステム分野」を基盤とした、次の4つの区分で編成しています。

1.コミュニティ・ケアシステム分野

看護の基本やコミュニティの中で生活している人々への理解とケアシステムのあり方を学ぶ。

2.医療看護分野

地域の中で生活している人の心と体の病気の予防と回復を助け、健康な生活に戻ることや、健康の維持を支えることを学ぶ。

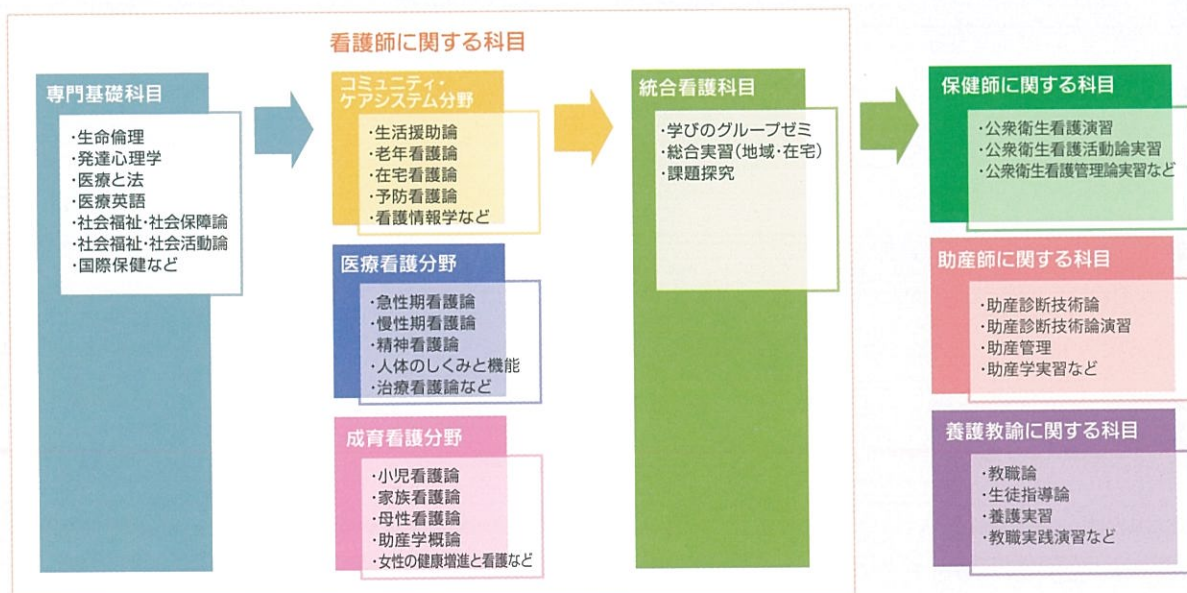
3.成育看護分野

子ども、学童、生徒、女性、家族の健康と安寧を支えることを学ぶ。

4.統合看護科目

1年生から4年生まで学年を越えて同じゼミで学ぶ「学びのグループゼミ」。実習で学んだ看護の実践事例を共有しながら、コミュニケーション力を培い倫理的・道徳的な態度を身につけ、生涯にわたって看護を探究する姿勢を学ぶ。最終的に「総合実習(地域・在宅)」、「課題探究」により4年間の学びを統合する。

看護学部 看護学科カリキュラム



最新設備で最先端技術を習得

新たに建設した「看護学部棟」は、鉄筋コンクリート造5階建て、延床面積約7,500㎡で、収容定員の設置基準面積をはるかに超える学舎です。キャンパスにいながら看護の最新の機器、設備を用いて、実践的に学ぶことができます。さらに、国家試験に向けての自主的な学習、学生同士のコミュニケーションの場として、コモンスペースや自習スペースを設けています。

講義室・演習室の机と椅子は可動式で、授業の目的に応じた形態で受講でき、AV機器も完備しています。

基礎看護の実習室は、ベッド、洗髪台、給湯給水設備、在宅看護の実習用に住宅再現コーナー、母性実習室には、分娩台、診察台、沐浴槽などが設置され、目的に合わせた看護実習が行える施設となっています。



看護学部棟完成予想図



看護学部棟の上棟式—行古学園 行古誠之理事長による玉串奉奠

先端医療技術の研究拠点が集まる 神戸医療産業都市 ポートアイランドで学ぶ

看護学部は、ポートアイランドキャンパスに開設されます。

ポートアイランドは、今、産学官の連携により先端医療技術の研究開発拠点を整備する「神戸医療産業都市」構想が進行中です。

14の中核施設をはじめ、270以上の医療関連企業が集まる国家的プロジェクトの舞台となっています。

医療や看護の世界は日々進歩をとげています。神戸女子大学は、この最先端の都市で最新の設備を整えるとともに、地域の医療機関と連携した質の高い臨地実習を提供します。

さらに、専門分野において卓越した看護実践能力を有した専門看護師を数多く教員として招き、既設の健康福祉学部とも連携。

これまでの教育実績をベースに、病気や障がいとともに生活している人、高齢者や子どもなど、それぞれの健康を生活者の視点から地域の中で支える看護の実践家を育てます。



OPEN CAMPUS

看護学部オープンキャンパスを開催しました



自動血圧測定コーナー



心音聴診の体験コーナー



AEDの使用体験コーナー

「看護師として人の生きるチカラを支えたい」という夢をもって、オープンキャンパスに、多くの高校生がご家族の皆様とともに来場されました。

看護学部の概要説明、コンピューターグラフィックスでの「看護学部棟」の紹介に続き、看護学部就任予定の教員によるミニ講義など、ご来場の皆様は大変熱心に聴講されました。

会場となった体育ホールのアリーナには、学科相談、入試相談、実習体験、看護用品などのコーナーが設けられ、オープンキャンパスに参加した高校生の皆さんは、各コーナーを回り受験相談や授業内容、実習についての情報を得たり、実習体験をしたりして看護師になるという夢に向かって歩み始めました。



ミニ講義



学科相談と入試相談のコーナー



実習服候補の展示



これに決定!

平成26年度 催し内容

開催日程

6月15日(日)、7月19日(土)、8月2日(土)、3日(日)、
17日(日)、9月13日(土)、11月22日(土)※
※須磨キャンパスで開催

ミニ講義

- ・看護における皮膚ケア(7/19、8/17)
- ・リウマチってどんな病気?(7/19、8/17)
- ・認知症ってどんな病気?(8/2、8/3)
- ・アレルギーのある人を看護する(8/2、9/13)
- ・足をケアする方法(8/3)
- ・睡眠と看護(6/15、9/13)

看護実習体験コーナー内容

- ・看護学部概要説明
- ・展示コーナー
- ・入試相談コーナー
- ・高齢者の視界や身体の動きを体験しよう
- ・妊婦体験ジャケットを着てみよう
- ・フィジカルアセスメントモデルを使用した診察を体験しよう
- ・AEDの使用方法和一次救命処置を学ぼう
- ・自動血圧計で血圧を測ってみよう
- ・新生児人形を使って赤ちゃんの重さを体感してみよう
- ・介護・看護にまつわる用具を使ってみよう
- ・学科相談コーナー
- ・メッセージコーナー
- ・実習服総選挙&結果発表



古典芸能研究センターからの お知らせ



古典芸能研究センターリニューアル記念講演 「古典芸能研究の未来」



舞楽「蘭陵王」

中世芸能の視点から、「能の解釈史—高砂・敦盛二題」と題し、婚礼の席で「高砂」の島台が飾られるなど、日本人にとってもっとも馴染み深い能「高砂」を中心に、中世から現代にいたるまで、能の作品解釈がどのように行われてきたのか、その変遷をたどりました。

神戸女子大学名誉教授 阪口 弘之特別客員研究員は、近世芸能の視点から、



神戸女子大学名誉教授
阪口弘之特別客員研究員

「作者と編者—『かしま御本地』を事例に」と題して、作者によって生み出された浄瑠璃作品のテキストが、編者(本屋)を介することでいかなる変遷を遂げるか、実例を示しながら解き明かしました。

神戸女子大学教授 川森 博司古典芸能研究センター長は、民俗芸能の視点から、「来訪神儀礼と「はじまりの芸能」」と題し、人の心にやすらいをもたらすしなやかな力のある古典芸能の背景として民俗芸能や沖縄祭祀を位置付け、来訪神(別世界から訪れる神)を例に挙げて紹介しました。

講演会終了後は、来場者に、展示室で同時開催した「リニューアル記念展示」を非常勤研究員の解説によって見学していただきました。その際、貴重な能楽資料をセンターにご寄贈下さった手塚 稔子氏と伊藤 博氏へ中島 實学長より感謝状を贈呈しました。

神戸女子大学教授 大谷 節子兼任研究員は、



神戸女子大学教授
大谷節子兼任研究員

神戸女子大学教授 川森 博司古典芸能研究センター長は、民俗芸能の視点から、「来訪神儀礼と「はじまりの芸能」」と題し、人の心にやすらいをもたらすしなやかな力のある古典芸能の背景として民俗芸能や沖縄祭祀を位置付け、来訪神



神戸女子大学教授
川森博司古典芸能研究センター長



講演の様子



手塚稔子氏



中島實学長と伊藤博氏

写真展「沖縄の祭祀1978-2013」

平成26年8月27日(水)から11月19日(水)の期間、展示室で写真展「沖縄の祭祀1978-2013」を開催し、センターがWeb公開している「沖縄祭祀資料データベース」に収録された祭りを紹介しました。このコレクションは、センターが所蔵する沖縄の祭りの写真8,000枚あまりとその調査資料が中心です。センターでは、現在も現地での追跡調査と資料収集を継続することで補足と充実をはかり、データベースの更新を行っています。そこで、今回は、平成19年度にデータベース公開を記念して開催した展示を基に、こうした最近の成果を新たに加えて展示しました。



国際研究集会「見つめる能面・能面を見つめる」

古典芸能研究センターでは、研究プロジェクト「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」の一環として、平成26年11月29日(土)・30日(日)、ポートアイランドキャンパスにおいて、「見つめる能面・能面を見つめる」と題する国際研究集会を開催しました。



国際研究集会1日目:狂言「三番三 鈴の段」

国際研究集会「見つめる能面・能面を見つめる」

日時:平成26年11月29日(土) 13時~17時・30日(日)10時半~17時

場所:ポートアイランドキャンパス B館403(AVホール)

主催:神戸女子大学古典芸能研究センター研究プロジェクト

「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」

(平成25年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択(研究観点

「研究拠点を形成する研究」)



国際研究集会2日目:シンポジウム

◆11月29日(土) 国際的に多様な視点から能・狂言面を考察する

【狂言】「三番三鈴の段」三番三 茂山七五三、千歳 茂山宗彦、笛 斉藤敦、小鼓 清水皓祐、大鼓 山本哲也

【講演】能面研究の射程 大谷 節子(神戸女子大学教授・研究プロジェクト代表)

韓国の仮面と仮面劇 李 応寿(世宗大学校教授)

中国の仮面と仮面劇 廣田 律子(神奈川大学教授)

ヨーロッパの仮面と仮面劇 Peter W.Marx(ケルン大学演劇学研究所所長)[※]

※ピーター・マルクス教授は体調不良で来日がかなわず、当日は本学国際交流推進部長 海老 久人教授が予め頂戴していた講演原稿の日本語訳を代読しました。

◆11月30日(日) 学際的に多様な視点から能・狂言面を分析する

【講演】能面のような人-宗教学の視点から見る能面- 山折 哲雄(宗教学者・国際日本文化研究センター元所長)

【シンポジウム】「能面を科学する」司会 天野 文雄(京都造形芸術大学舞台芸術センター所長・古典芸能研究センター客員研究員)

研究報告

人類学の視点から見る仮面

吉田 憲司(国立民族学博物館教授)

民俗芸能の視点から見る仮面

宮本 圭造(法政大学能楽研究所教授・古典芸能研究センター客員研究員)

美術史の視点から見る能・狂言面

根立 研介(京都大学大学院文学研究科教授)

材料科学の視点から見る能・狂言面

高妻 洋成(奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長)

演者の視点から見る能面

金剛 永謹(能楽シテ方金剛流宗家)

討論者

Julie A.Iezzi(ハワイ大学教授・古典芸能研究センター客員研究員) 竹本 幹夫(早稲田大学文学学術院教授)

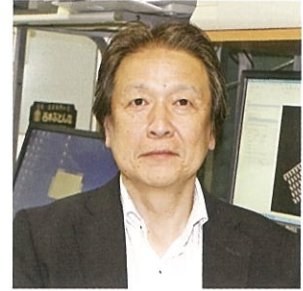
Stephen Marvin(能面収集家) 杉山 淳司(京大大学生存圏研究所教授) Monica Bethe(中世日本研究所所長)

川森 博司(神戸女子大学教授・古典芸能研究センター長) 大谷 節子(神戸女子大学教授・研究プロジェクト代表)

科学研究費助成事業に採択された研究紹介

セルロースの食品実用化に向けて

神戸女子大学大学院家政学研究科 研究科長 山根 千弘 教授



作成した再生セルロースフィルムの評価をゼミ生と行う山根千弘教授

セルロースはレーヨンやキュプラなどの再生繊維、セロファンやスポンジなどに広く使われています。セルロースは植物の細胞壁の主成分なので、本来可食性のものなのですが、前述の製品は食べることは出来ません。食感的に無理なこともあります。これらの製造過程において二硫化炭素や銅アンモニアなど食品の加工には使ってはいけない化学物質が用いられているからです。

一方、我々の研究グループはセルロースを水酸化ナトリウム水溶液に溶解することに成功しました。水酸化ナトリウムは食品の加工に使っても良いものです(ただし得られた食品

に残留してはいけない)。したがって、これにより初めて、再生セルロースを食品に展開することが可能になりました。とはいえセルロースは結晶性の高分子なのでとても硬く、いくら法律的に食べてよくても、食感的にとっても食べられたものではありませんでした。そこで、まずセルロース溶液から再生セルロースが析出する過程を、コンピュータシミュレーションや兵庫県にある世界で最も強力な高輝度放射光施設SPring-8などを使って検討してきました。セルロースの構造形成メカニズムを理解することが構造の制御に重要と考えたからです。そして構造形成過程において、疎水性の相互作用で集合した分子シートの形成を抑制すれば、結晶性の低い、すなわち良好な食感の再生セルロースが得られることを見出しました。このような研究をベースに、まず日本人が大好きな麺をつくることができました。食感をさらに良くするためにコンニャクグルコマンナンを混合しているのでカロリーゼロではありませんが、100gあたりわずか6kcalしかありません。加えて、茹でても麺がのびないという特徴もあります。またこれは食物繊維なので、急激な血糖値の上昇を抑えたり、経口的に摂取された変異原性物質を吸着して排出したりする効果もあります。ダイエットだけでなく、成人病の治療や食の安全にも貢献できるかもしれません。



セルロースの構造をコンピュータシミュレーションするゼミ生を指導する山根千弘教授

山根千弘教授の科学研究費助成事業に採択された研究課題

平成17～19年度 基盤研究B「セルロース/水酸化ナトリウム水溶液からの新機能性食品材料」
平成23～26年度 基盤研究C「ナノ食品—木質パルプから構造制御されて得た機能性食品材料—」

企業とコラボ・・・「無敵の白シャツ」完成！通信販売に登場

神戸女子大学家政学部 家政学科の「生活プロジェクト演習Ⅲ」(担当:大森 正子准教授、中西 正恵教授)の授業では、生活に関わる実践的なプロジェクトを企画し実行することで必要な知識と技術を身につけていきます。

平成25年度後期に初めて開講された「生活プロジェクト演習Ⅲ」の授業で、3年生の受講生が株式会社フェリシモと共同で女子学生の就職活動を応援するためのシャツを開発し、平成26年8月から通信販売の受注が開始されました。

働く女性を応援するために同社が既に開発した手入れしやすいカットソーシャツをもとに、就職活動に役立つ白シャツを現役の女子学生と一緒に作りたいという社から

のご提案で共同企画が始まりました。企業主催の説明会や採用面接に、学生はスーツで臨むことが多く、シャツのデザインは、定番どおりで堅苦しいものが多いのが実情です。学生たちは、おしゃれもしたい、個性も出したいという気持ちを満たし、就職活動以外でも着ることができるシャツを考えました。

完成したシャツは、カットソーのメリットがあり、着用時にはきちんとした印象を周りに与え、おしゃれで自分らしさも表現できるなどのコンセプトが盛り込まれています。「フェミニン」「クール」「エレガント」と3つのテイストのシャツが完成しました。名づけて「無敵の白シャツ」の誕生です。このシャツは、仕事をもつ女性にも高く評価されています。



株式会社フェリシモの社員2名(中央)の指導を受けながら、企画を練る学生たち



中西正恵教授(前列左)、大森正子准教授(前列右)、清瀬美紀助手(後列左)と一緒に完成したシャツを持って記念撮影



須磨・ポートアイランド両キャンパスでも発売しています

お弁当開発 続行中!

神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程の後藤昌弘教授(専門:調理科学)のゼミでは、昨年度から「自分の大切な人に食べてもらいたい健康に気遣ったお弁当」をテーマにコープこうべ関連会社の株式会社コープフーズと大塚食品株式会社のご協力のもと、実際の商品開発に取り組む体験学習を行っています。平成25年度に三つのお弁当を開発した先輩に続き、平成26年度のゼミ生も学んでいる栄養学の知識を生かしたお弁当を考えています。

第4弾のお弁当は、食欲の落ちる夏に必要な栄養素を摂取でき、疲労回復の効果のある酢酸やクエン酸が含まれる黒酢のあんをかけた白身魚を主菜に、ビタミンCやβ-カロ

テンを含む10種類の野菜などが入っています。

第5弾はおふくろの味として人気の「肉じゃが」を主菜とし、野菜を15種類含めた合計30品目を使ったお弁当を考えました。

主食のご飯は大塚食品株式会社の「マンナンヒカリ」を使用し、カロリーは控えめで、栄養を考え季節を感じるお弁当を考案しました。

材料の原価計算や工場での製造工程を考えたレシピ作りなどでコープフーズの皆様にご助言、ご協力をいただき、学内の実習ではできない様々な経験ができました。今春には第6弾のお弁当を発売します。



後藤昌弘教授とゼミ生



平成26年度に販売されたお弁当

第4弾「～暑さに負けるな!～『10種野菜の黒酢あん弁当』(左)
(513kcal) 7月21日(月)～10月19日(日) 販売

第5弾「たっぷり30品目おふくろの味弁当」(右)
(497kcal) 10月20日(月)～1月18日(日) 販売

*第1弾「かつんと贅沢25品目牛丼弁当」は好評につき現在もコープこうべで発売中



国際交流

教育研究活動

交流年表

(姉妹提携等)

1983年	ハワイ大学(米国)	2010年	ウダヤナ大学(インドネシア)
1993年	ケント大学(英国)	2010年	西安工程大学(中国)
1997年	フライブルク大学(独国)	2010年	カセサート大学(タイ)
2000年	華南師範大学(中国)	2010年	高麗大学(韓国)
2006年	ガジャマダ大学(インドネシア)	2011年	チェンマイ大学(タイ)
2006年	オークランド工科大学(ニュージーランド)	2011年	カリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校(米国)
2006年	ピッツァー大学(米国)	2012年	アイルランガ大学(インドネシア)
2007年	チェンドラワシ大学(インドネシア)	2014年	静宜大学(台湾)

チェンマイ大学との交流

2014年7月14日(月)から18日(金)の間、タイのチェンマイ大学からカリム・フセイン(Karim Hussain)氏とパリヤポーン・スバモンナコル(Pariyaporn Supamongkol)氏が、神戸女子大学の須磨キャンパスを訪れ、文学部神戸国際教養学科の学生に、特別講義とタイ語及び英語のレッスンを行いました。同学科の学生で、8名がチェンマイ大学、1名がカセサート大学へ留学を予定しており、そのサポートにもなりました。

フセイン氏による特別講義は、17日(木)3時限目と4時限目に開催され、講義は全て英語で行われました。

3時限目は「国際協力・援助政策論」(担当:野口 和美准教授)の授業で、2年生35名が受講しました。最初に学生たちは、タイについて知っていることを順番にホワイトボードに書き出し説明しました。それを踏まえてフセイン氏はタイの文化や習慣を紹介し、外国からの観光客の状況、ASEAN(アセアン)の加盟国について講義しました。続いて学生たちは、順番に現在のアジアの国際状況のイメージをホワイトボードに書き、

感じている事を発表しました。最後はグループに分かれて、ASEAN 10ヶ国の知識を試すカードの分類ゲームで、楽しみながらASEAN諸国の知識を深めることができました。

4時限目の「グローバル・ローカル専門演習I」(3年生ゼミ)の授業では、アン・ケーリ教授と野口准教授のゼミ生24名が合同で受講しました。始めにフセイン氏は自身の家族やルーツを紹介し、続いて3名の学生が自分の家族や出身地の紹介をしました。この後、国内外の学校の中で起こっている問題を取りあげ、国境を越えた人と人とのふれあいについて考え、各自がグローバルな視点をもつように心がけて意見を述べました。

学生たちは、特別講義を受講してタイを含めたASEAN諸国に興味をもち自分もアジアの一員であると自覚し、広い視野をもつことの大切さを学びました。

特別講義終了後、フセイン氏とスバモンナコル氏は、学長室を訪れて中島 實学長にチェンマイ大学との交流についての感謝の意を伝えるとともに記念品を贈呈しました。



チェンマイ大学カリム・フセイン氏



フセイン氏の講義の様子



中島實学長を表敬訪問したフセイン氏とスバモンナコル氏(前列右)、後列は左から安原順子教授、海老久人教授、野口和美准教授、アン・ケーリ教授

静宜大学と友好交流協定を締結

2014年8月7日に神戸女子大学と台湾の静宜大学は、両大学の学生と教員の学術、文化交流の発展、および大学の国際化の促進を目的として友好交流に関する協定を結びました。台湾で中国語を学習できる機会を学生らが大いに活用することが期待されます。

友好協定の締結にあわせて国際事務顧問である日本語学科の曾 煥棋先生が須磨キャンパスを訪問されました。

神戸国際教養学科では、2015年度から静宜大学におけるオフ・キャンパス・プログラムの実施を予定しています。今回の訪問では、国際交流推進委員会の関係教員とプログラム内容や今後の交流についての意見交換と、中島 實学長との面談が行われました。神戸国際教養学科の教員との交流の機会もあり、オフ・キャンパス・プログラムの円滑な実施が期待されます。



須磨キャンパス・ライブラリー・commonsで今後の交流計画を相談後に記念撮影
曾煥棋先生(中央)と国際交流推進委員
(左から安原順子教授、王霜嬌教授、海老久人教授、野口和美准教授、国際交流推進事務室の奥野なつき課員)

日本ヘモレオロジー学会国際合同シンポジウム 神戸女子大学参加報告

2014年8月23日・24日に、日本・インドネシア国際合同シンポジウムがインドネシアの国立ウダヤナ大学(バリ島)で開催されました。ウダヤナ大学医学部内分泌・老年科、日本ヘモレオロジー学会、神戸女子大学が共同で開催したシンポジウムには、それぞれの大学の教員や大学院生、学会に所属する研究者などによる最新の研究成果が発表され、今後の健康、栄養、社会福祉学及び老年学(臨床医学)におけるヘモレオロジーの研究分野を牽引していく機会のひとつとなりました。

本学園及び学会からの参加者はその同行者、研修学生や取材陣も入れると総勢50人にも及びました。さらに、本学と教育研究交流提携MOUを交わしているウダヤナ大学スアスティカ学長から本学園行吉 誠之理事長にこの記念すべき合同シンポジウムへの特別招待があり、行吉理事長は荣誉ある開会ゴングを打ち鳴らし、開会宣言を行いました。そして、ウダヤナ大学側から記念品として、老年シンポジウムに相応しい絵画が理事長にプレゼントされました。

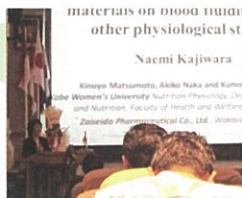
神戸女子大学健康福祉学部の学部長 梶原 苗美教授による基調講演、同学部の教員の口頭発表が行われ、研究のポスター発表には、教員に加えて大学院生も参加しました。今回の合同シンポジウムは、健康福祉学部の「国際健康福祉プログラム」にも組込まれ、履修した12名の学生は、国際シンポジウム参加やウダヤナ大学医学部の学生との交流など貴重な体験もしました。発表者全員に参加証明(Symposium Certificate:Dr.トゥテイ医学部教育病院長、横川 晃治日本ヘモレオロジー学会理事長、梶原学部長署名)が発行されました。



開会宣言を行う行吉誠之理事長



ウダヤナ大学から寄贈された絵画



基調講演中の梶原苗美教授

健康福祉学部 学部長 梶原 苗美教授による基調講演

梶原 苗美教授は23日に基調講演「Studies on the effects of herbal materials on blood fluidities and other physiological status」(「漢方生薬による血流の改善作用に関する研究」)を行いました。

概要:「冷え」に有効とされる漢方(四物湯、十全大補湯、七物降下湯)及びその成分である生薬(当帰、川芎、芍薬、地黄、釣藤鈎等)を疾病モデル動物に与え、血液流動性への影響を観察した。その結果、血液流動性の亢進や脂質代謝の改善効果等が証明された。



会場で打ち合わせ中の梶原苗美教授

健康福祉学部 吉川 豊教授 プレゼンテーション賞受賞

健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科の吉川 豊教授は「Study of zinc compounds with lifestyle-related disease therapeutic effect」(「亜鉛化合物が生活習慣病の治療に及ぼす効果」)というテーマでプレゼンテーションを行い、今回のシンポジウムの中で特に優れた研究に贈られるプレゼンテーション賞を受賞しました。

概要:生活習慣病の中でも完全な回復が難しい、糖尿病や高血圧状態の動物に、亜鉛化合物を与えた結果、高血糖や高血圧状態を改善することを証明した。最近の研究で合成に成功した新しい亜鉛化合物は、過去の亜鉛化合物より、糖尿病治療効果に優れており、高血圧の改善効果も示した。今後、安全性の問題がクリアになれば、上記亜鉛化合物の臨床への応用も期待できる。



帰国後、賞状を学部長の梶原教授から手渡される吉川豊教授



口頭発表

教員:鈴木 一永教授(健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科)
吉川 豊教授(同上)
松本 衣代助教(同上)

ポスター発表

教員:安原 順子教授(文学部 日本語日本文学科)
横山 正子教授(健康福祉学部 社会福祉学科)
清水 弥生准教授(同上)
木村 あい准教授(同上)
重福 京子准教授(健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科)
坂元 美子准教授(同上)
大学院生:川崎 朝子、仲 亜紀子、末長 佳奈(家政学研究科 食物栄養学専攻)

本学からの発表者

日本ヘモレオロジー学会

ヘモレオロジー(【hemorheology】血管内の血液の流動について研究する学問)およびその隣接する分野と栄養・運動・健康の基礎から応用に至る研究の発展を図り国際臨床ヘモレオロジー学会と連絡を保ちながら広く知識の交流を求めるとして設立。栄養、食品学、運動生理・スポーツ学、医学、物理・生物学などの様々な分野の研究者が会員。

東日本大震災を忘れない

神戸女子大学・神戸女子短期大学は20年前に阪神・淡路大震災で、三宮キャンパスに大きな被害をうけ、下宿先で大学の学生2名の尊い生命が犠牲となりました。

東日本大震災で被害に遭われた多くの人々の心に寄り添い現地の一日も早い復興へ少しでも協力したいという思いは、震災直後から現在まで変わらず続き、教職員は様ざまな形で支援を続けてきました。「東日本大震災を忘れない」という思いが礎となった今年度の活動を紹介します。

健康福祉学部 社会福祉学科の教員と学生 ボランティアに参加

第1回 平成26年7月18日(金)～7月21日(月) 第2回 平成26年7月30日(水)～8月2日(土)

健康福祉学部 社会福祉学科の泉 妙子教授、木村 あい准教授と学生が、昨年度に引き続き岩手県陸前高田市と大槌町への関西3生協(注)が主催するボランティアバスツアーに参加しました。参加した学生は、ゼミ生、介護福祉コースで学ぶ2年生から4年生までの有志、合計22名です。第1回は、陸前高田市に学生6名教員1名、大槌町には学生9名教員1名と二手に分かれて「菜の花プロジェクト」の活動を行いました。第2回は陸前高田市の奇跡の一本松を訪れ、地域交流支援に2年生7名が参加しました。

東日本大震災から間もなく4年となりますが、復興がなかなか進まない状況のなかで、人々の癒えない気持ちを感じられました。

短い期間での活動ではありましたが、学生たちはボランティア団体の活動の方法や果たす役割の大きさを学び、防災を真剣に考え、将来専門職に就いた時に再度東北を訪れ人々と関わりたいと思いました。「小さな力も積み重なれば大きな力になる」と確信し、今後も自分たちができるボランティア活動を継続していきます。

(注) 関西3生協とは、おおさかバルコープ、よどがわ市民生協、ならコープ



菜の花を植えるために草を抜き、土から石を取り除きました



地域交流支援の様子

東日本大震災の教訓をテーマに研究

東日本大震災の復興支援のボランティアに熱心に取り組む家政学部家政学科の上野 勝代教授のゼミ生が、卒業論文、修士論文のテーマとして東日本大震災を取り上げました。

■「仮設住宅をよりよいものにするには」■

家政学部家政学科の生駒 美樹さんは、避難生活を少しでも快適な環境にするためには仮設住宅の構造をどのように改善すればよいか、現地に足を運び研究会に参加して勉強を続けました。

生駒さんは平成25年の夏に行われた本学の被災地への学びのバスツアーで現地を訪れ、平成26年には、岩手県宮古市で開催された日本住宅会議主催のサマーセミナー、大船渡市で開催されたNPO法人西山外三記念すまいまちづくり文庫のワークショップに参加し、陸前高田市の仮設住宅を訪問調査しました。仮設に住む人の立場になり、バリアフリーや被災地の気候を考えた構造にすることが重要であると論文にまとめました。

■「家庭科における防災教育を考える」■

大学院家政学研究科の生活造形学専攻 福濱 彩乃さんは、学部の4年生の時に上野ゼミの仲間と手づくりの裁縫箱を被災地に贈りました。また、学部生のときから3年連続被災地を訪れ、修士論文のテーマである家庭科教育に防災教育を効果的に生かす方法を研究するとともにボランティア活動も行ってきました。

緊急時には、学校の体育館などの多数の人員を収容できる場所が避難所になります。福濱さんは東日本大震災時に避難所となった宮城県の大川町立高屋小学校で当時の状況を運営者側と被災者側の立場から調査し、避難所をよりスムーズに運営する方法や日頃から防災意識を高める家庭科教育について研究しました。



上野勝代教授から岩手県の避難所の資料について説明を受ける福濱彩乃さん(中央)と生駒美樹さん

健康福祉学部 社会福祉学科 キャリアアップ研修事業の開催

神戸女子大学健康福祉学部 社会福祉学科は、高齢者・障がい者・児童・生活困窮者などさまざまな生活課題をもつ人に福祉・介護分野での専門的な支援を担う社会福祉専門職を育てる教育・研究を行っています。

兵庫県の福祉・介護従事者キャリアアップ研修事業の助成を受けて、介護・福祉分野で働く職員の方を対象にしたキャリアアップの研修会を平成26年9月27日(土)、シンポジウムを平成26年10月24日(金)にポートアイランドキャンパスで開催しました。

研修会とシンポジウムには、介護や福祉の現場で働く職員の方々に参加されました。

研修会は講義に加えワーキンググループ形式での研修が行われ、最新の研究の情報や政策動向が講義されました。参加された職員の方々の共通の悩みや課題についての情報交換も活発に行われ、その解決方法についても話し合われました。

シンポジウムは、外国の介護事情や、経済連携協定(EPA)によって始まった看護師・介護福祉士候補者の受け入れについて現状と課題が報告され、外国人介護福祉士が活躍でき、役立つ存在であるための提言が発表されました。

この研修事業には、社会福祉学科の多くの学生が参加し、熱心に聴講しました。



研修会の様子(左上) シンポジウムの様子(右下)

学科特別演習(ゼミ)紹介 にこにこクラブの活動

神戸女子短期大学幼児教育学科 塚田 みちる准教授のゼミでは、地域の子育て中のご家族のふれあいに「にこにこクラブ」を開催しています。「にこにこクラブ」は、就学前のお子さんとそのご家族を対象に、キャンパス内の保育実技室で月1回開催される「親子遊び」の場です。この活動を通して、幼稚園教諭・保育士を目指す学生は、親子との関わり方やより良い保育環境を考える研究を行っています。

学生たちは、毎回子どもたちが遊ぶ環境を考えて、保育実技室のレイアウトをします。0歳のお子さんでも安全に遊べるように絨毯を敷いたコーナーから、5歳のお子さんが体を動かして遊べるコーナーまで、年齢に応じたレイアウトを考えます。子どもたちが興味をもった遊びを見守り、子どもの関心が広がる様子と親子のふれあいを観察し、子どもの健全な心の成長や保護者の子育ての思いについて、自分たちは何を支援できるか考えています。地域の皆様にも喜ばれ、学生にとっては実践的に学べる場になっています。

*平成26年9月に、保育実技室が新しく生まれ変わりました。より保育に適した教室に改修され「にこにこクラブ」を実施しています。



にこにこクラブの様子



ボールプールで遊ぶ子どもたちを見守る学生



塚田みちる准教授(前列右から3人目)とゼミ生

2014 OSAKA手づくりフェア「デコリメイク&リメイクチャレンジ展」 神戸女子短期大学 総合生活学科の学生受賞



2014 OSAKA手づくりフェアで展示された作品



大阪市市長賞を受賞した作品

服飾関連を教育・研究する関西の大学、短期大学、専門学校を対象にした学生のコンテスト「平成26年第5回デコリメイク&リメイク チャレンジ展(注)」(主催:大阪釘服飾手芸卸協同組合)において、神戸女子短期大学総合生活学科古田 貴美子講師のゼミ生2年生4名が製作した「ダンス用ドレス」が大阪市市長賞を受賞しました。今回はこの作品展に103点の応募がありました。

古田ゼミの学生は、古くなって着用されなくなった黄色のギンガムチェックのウェディングドレスをダンス用の衣装にリメイクしました。光沢のある煌びやかな布地は、ステージなどで脚光を浴びるダンスにはぴったりで、ウェディングドレスに使用されていたオーガンジーを十分に利用し、ふわふわとしたかわいらしいドレス4着が出来上がりました。このコンテストに出品したのは3点で、その中の1点が大阪市市長賞に輝きました。

受賞したドレスは、ウエストにアクセントがあり、スカート丈にこだわりました。後ろ身頃には大きな花のコサージュがつい

ており、人目を惹きます。他の2点の作品もフリルやタックを多く取り入れたデザインで、元のウェディングドレスの華やかさを生かしました。

9月5日(金)に、出展した大学、短大、専門学校によるファッションショーがマイドームおおさかで開催され、作品を着たアイドルダンスサークル「キャラメリィ」の学生8名がダンスを披露しました。この日のために古田ゼミの学生は、ロイヤルブルーのウェディングドレスをリメイクし4点の作品を追加しました。

リメイクした学生のうち2名は、ダンスサークルで活動しています。ファッションショーでは、リメイクされた衣装がより一層映えるように何日もかけて練習を行い、本番では、若さあふれるはつらつとしたダンスを披露しました。華やかなドレスで躍る学生に、観客の皆様からは、賞賛の言葉があちらこちらからあがりました。

学生たちはこの作品展に参加したことで得た知識や技術も生かして、卒業作品のウェディングドレス製作に精一杯取り組みました。



ファッションショーでダンスを披露する学生



ファッションショーの後、製作した学生と古田貴美子講師(後列左)と一緒に記念撮影



表彰状と記念品を持って長瀬荘一学長と記念撮影

(注) 既存の服飾品に、ビーズやワッペンなどの服飾資材を付けデコレーションしたもの(デコリメイク)と既存の服飾品に手を加え形や用途が変わったもの(リメイク)が出品され、毎年オリジナリティーあふれる意欲的なファッションが展示されている

食育を実践！食物栄養学科

神戸女子短期大学食物栄養学科は、「人間性豊かな食と栄養のクリエイション」をスローガンに「食」のスペシャリストを育成しています。即戦力となる栄養士になるために卒業必修科目、栄養士必修科目には、生活習慣病による病気や高齢化への対応、子どもの食育の実践、多様な食を取り巻く問題に対応するために調理実習や実験を多く取り入れています。

「栄養学実習Ⅱ」(担当：今本 美幸准教授、中村 千里講師)の授業では、毎年「子どもの料理教室」を開き食育を実践しています。平成26年11月6日(木)に、近隣の神戸市立港島幼稚園の5歳児22名を対象とした子ども料理教室をポートアイランドキャンパスの調理実習室で開催しました。子ども自身が楽しく調理をして、栄養についても興味をもつように工夫する実習です。今回のテーマは「おいしい秋み～つけた！」とし、学生が秋の身近な食材を使って、和食の伝統も伝える献立を考えました。

学生たちは、子どもたちが安全に調理できる方法や子どもたちの自主性を尊重したサポート方法を学んで実践することで、食育の大切さや楽しさを追求する機会にもなりました。

献立：おいしい秋み～つけた！

さつまいもごはん

さんまのみそ煮

いんげんとしめじのごま和え

豆腐の清汁



実習の様子



試食の様子



総合生活学科 新カリキュラムによる授業の紹介

神戸女子短期大学総合生活学科では、平成25年度の学科再編により、学生は10の多彩な分野から自由に科目を選択できるようになりました。学生は自分の関心・興味のある分野で、専門的な知識と高い技術を身につけ、希望する資格やキャリアプランにつなぐことができます。「食」に関する資格の一つとしてフードコーディネーターが加わりました。

平成26年度には2年生を対象とし、前期は「フードコーディネーターの基礎」、後期は「フードコーディネーター実習」が開講され、「食」をよりおいしくプロデュースするために必要なテーブルコーディネート知識と技術を学びます。日本料理・西洋料理・中国料理に合ったテーブルコーディネートができるように、セッティングの約束ごと、食器・食具やテーブルクロス、ナプキンなどのコーディネートアイテムの知識と使い方を学習しています。

カラーコーディネート、テーブルマナーやサービスマナーも習得し、履修した学生は、フードコーディネーター3級の資格を得て、食空間の演出ができる分野で活躍することを目指しています。

「フードコーディネーター実習」(担当：中尾美千代准教授)の授業の様子



手作りのお菓子でおもてなしのコーディネート実習



ナプキンの折り方の実習



クリスマスのテーブルコーディネートの実習

小学校の「地域安全マップ活動」に参加協力

平成26年11月14日(金)に神戸女子大学家政学部 家政学科の梶木 典子教授(専門:都市計画、住環境計画)のゼミ生を中心に24名の学生が、神戸市立夢野の丘小学校5年生107名の「地域安全マップ活動」(主催:神戸市兵庫区役所まちづくり課)に協力し、子どもたちの「まち探検」「安全マップ作成」をサポートしました。子どもが巻き込まれる



安全マップの作成方法を説明する学生

事故や犯罪の安全対策として、子どもたち自身が危険を回避する力を身につけ、地域の特徴を知り、地域の人と顔見知りになる方法のひとつが「安全マップ活動」です。兵庫警察署、保護者、兵庫地区青少年育成協議会の方々の協力も得て実施しました。午前中は、梶木ゼミの学生が子どもたちに防犯などの事前学習を行い、その後グループに分かれて、学生たちと一緒に校区内の「まち探検」に出かけました。子どもの



まち探検でチェックポイントを探して歩く児童
学生と保護者も同行

視線で注意すべき箇所や遊ぶ場所などをチェックし、地域の人へインタビューをして交流し、防犯の意識や地域への愛着心を高めました。

午後は、「まち探検」の成果を取り入れて「安全マップ」を完成させ、グループごとに発表し、その内容をクラス全員で共有しました。

梶木研究室では、平成17年度から、児童館と小学校を対象にして、参加する子ども達は「主体的に」「楽しく」、指導する大人は「簡単に、負担なく」実践できるように「地域安全マップづくり」のプログラムを開発し、改良を重ねています。現在は、実施対象ごとにカスタマイズしながら実践し、研究を続けています。



完成した安全マップについて発表する児童

学生消防団員 防災リーダーとして活躍中

今年で阪神・淡路大震災から20年を迎えました。震災の体験を次世代へ語り伝え、東日本大震災を始め多発する災害に備えて、防災の意識をもち、助け合いの精神を醸成する機運が高まっています。

平成22年度の市消防団条例改正により、通学地の消防団に入ることが可能となり、神戸女子大学須磨キャンパスに通う学生の希望者が神戸市須磨消防団に入団しました。平成26年度は15名の在学消防団員が地域の防災活動で活躍しています。

神戸女子大学須磨キャンパスでは平成26年10月17日(金)に、防火・防災訓練を行いました。消防団員で教育学科3年生の神野 美穂さんと植田 結衣さんが、この訓練に

参加し指導的な役割を果たしました。

二人は平成25年10月に神戸市須磨消防団の消防団員となりました。二人は小学校教諭になることを目指していますが、将来、子どもたちの安全を守り、緊急事態が起きた時には冷静に対応できる教員になりたいと考え、防災や救急救命措置についても学べる消防団に入団を決めました。地域の安全活動にも積極的に参加しています。

また、神戸新聞社の呼びかけで平成26年8月に始まった若い世代を対象とした「117 KOBEぼうさいマスタープロジェクト」にも参加し活躍しています。



須磨キャンパスの防火・防災訓練に参加



学園祭で防火・防災管理委員会委員長の
平田耕造副学長と防災のブースで啓蒙活動中



神戸女子大学

神戸市立須磨離宮公園

「斬新に華やぐ大正きもの」・・・武庫離宮造営100年に寄せて

神戸市立須磨離宮公園の前身である武庫離宮は大正3年の造営から昨年で100年になりました。神戸女子大学と須磨離宮公園はキャンパス・パーク連携(注)を結んでおり、家政学部家政学科 岡本 陽子教授の研究室が武庫離宮造営100年記念行事「KIMONO-SUGATA～大正ロマンで昔気分～」に協力しました。

昨年11月24日(月)からスマートフォンで、「KIMONO-SUGATA」アプリをダウンロードし起動すると、岡本研究室の研究テーマのひとつでもある大正時代に流行したきもの画像が取り込めます。好きなきものを選び、あらかじめ撮っておいた全身の画像に重ねると、あたかも大正時代のきものを着用しているような写真が作成できます。この企画には家政学科を中心に13名の学生がバーチャル画像のモデルになり、岡本研究室のゼミ生11名が、着付け、スタイリストなどのスタッフとして画像撮影に活躍しました。また、写真作成のアプリは神戸情報大学院大学で開発されました。

バーチャル試着できるきものは、大正時代の白の花嫁衣裳、当時流行したチューリップ柄の銘仙きもの、バラの柄のモスリンきもの、斬新な絵柄の女給さんのきものです。

この企画により実際にきものを着た気持ちで武庫離宮の造営された大正時代に思いを馳せることができます。

(注)神戸女子大学と神戸市立須磨離宮公園は、平成18年12月に協定を結び、隣接する地理的条件を生かし、本学の教職員と学生が離宮公園を教育・研究の場として使用を承認されている



1. おろかじめ撮影しておいた画像を選択します 2. 着物を貼り付けます (4種類) 3. モノクロやセピアの加工と保存ができます

須磨離宮公園の案内チラシより



バーチャル着用できるきもの



岡本陽子教授(前列中央)とモデル、スタッフの学生たち

学 園 からのお知らせ

○日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」の研修生について

平成26年10月6日(月)から26日(日)の期間、日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」で採択されたインドネシア国立ウダヤナ大学医学部看護学科の研修生2名が、神戸女子大学で介護福祉教育を学びました。

バユさん(I Gede Bayu Wirantika)とコマンさん(Ni Komang Suryaningsih)と呼ばれて、神戸女子大学の学生と短期間ではありましたが親交を深めました。

二人は、社会福祉学科の専門科目を受講し車椅子を学外で利用する実習や地域交流活動に参加しました。また、兵庫県の福祉・介護従事者キャリアアップ研修事業のシンポジウムと、特定非営利活動法人アジア・エイジング・ビジネスセンター理事長 小川 全夫氏による講演「日本の介護を世界のKAIGOに」を聴講しました。



学外で車椅子を使った実習に参加の研修生

○公開プレゼンテーション 関西デザイン学生シンポジウム2014参加

平成26年10月17日(金)にグランフロント大阪北館ナレッジキャピタルで開催された、関西デザイン学生シンポジウム2014(注)において、JID代表の神戸女子大学家政学部 家政学科の来海 素存准教授の3年生のゼミ生が、「おもてなしのデザイン」について、公開プレゼンテーションを行いました。

来海ゼミの学生は、「住空間コース」で学んだ知識を生かして、「おもてなしのデザイン」という共通テーマに、神戸市中央区中山手地区を想定敷地にした“旅館”を提案しました。「和を！ 輪を！ WAO！」をコンセプトに、和風の旅館でありながら神戸市のもつ西洋的なイメージと和の心を融合したおもてなしを考え、デザイン化して発表しました。



プレゼンテーションの様子(上)と
終了後に来場者に配布したカードを持つ
来海素存准教授とゼミ生

(注) 共催3団体
JID: 公益社団法人日本インテリアデザイナー協会西日本エリア
JIDA: 公益社団法人日本インテリアデザイナー協会関西ブロック
JCD: 一般社団法人日本商環境デザイン協会関西支部

○予告 平成27年4月ポートアイランドキャンパスにもライブラリーcommons誕生

須磨キャンパスに続き、ポートアイランドキャンパスにも学生の自主的な学習を支援するための施設「ライブラリーcommons」が平成27年4月に誕生します。

B館の図書館を中心に改修したもので、ライブラリーcommonsゾーン、情報処理実習室ゾーン、書架・閲覧ゾーンの三つの機能も持ちグループや個人の学習、学生と教員、学生と学生の交流の場となります。ICT(注)環境を充実整備し、学生と教員のICT活用を促進します。

(注)ICT【Information and Communication Technology】情報通信技術



訃報

貝原 俊民 名誉理事長が、平成26年11月13日にご逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

行事日程

1月

1	木	元旦	
5	月		<大学・短大>後期授業再開
12	月	成人の日	
17	土		阪神・淡路大震災鎮魂の日 大学入試センター試験(18日まで)
20	火		<大学>学友会後期総会
21	水		一般入試前期(22日まで)
27	火		<大学・短大>後期授業終了
31	土		<短大>ブルーム展(2月5日まで)

2月

7	土		<短大>後期定期試験・補講期間終了
11	水	建国記念の日	
17	火		<短大>後期定期試験結果・追再試験発表
24	火		<短大>後期追再試験(27日まで)

3月

3	火		<大学・短大>一般入試後期
16	月		<大学>学位記授与式・卒業祝賀会
18	水		<短大>第64回学位記授与式 卒業記念パーティー
21	土	春分の日	

4月

3	金		<短大>入学式
4	土		<大学>入学式
6	月		<大学・短大>前期授業開始
29	水	昭和の日	<ポートアイランドキャンパス>祝日授業日

表紙写真

グラハム・トーマス Graham Thomas

「グラハム・トーマス」

英国の世界的な園芸家「グラハム・S・トーマス(1909-2003)」が近代的なモダン・ローズの全盛期であった1972年に、当時忘れ去られていたオールド・ローズを300種以上集めて設計したバラ園が、「モティスフォント・アビー・ガーデン」です。ガーデニングの本場英国でも有名なこのバラ園は壁に囲まれた秘密の花園で、13世紀からの修道院(アビー)の一角にあります。現在は歴史的建築物の保護を目的として設立されたナショナル・トラストが管理しています。グラハム・S・トーマスは長年親交の深かった英国の世界的育種家「デビッド・オースチン(1926-)」のナーセリーで、黄色のイングリッシュローズを選び、自らの名を捧げました。イングリッシュローズとはデビッド・オースチンが作出したバラの総称で、オールド・ローズのクラシカルな花の形と華やかな香り、モダン・ローズの鮮やかで多彩な色を受け継いでいます。イングリッシュローズには珍しい深みのあるピュアイエローの中輪カップ咲きで、濃厚なティーローズの香りをもつ名花。昨年造営100年を迎えた武庫離宮の遺構が残る須磨離宮公園で、偉大な園芸家の名を冠したイングリッシュローズに古と現代が生み出すハーモニーを感じてみませんか?



神戸市立須磨離宮公園 園長 山村 治



編集後記

今回の広報誌の作成にも、学外、学内の関係者の皆様に多大なご協力をいただき、深く感謝し御礼を申し上げます。
編集作業は街が電飾で鮮やかになる季節と重なります。本学園でも学友会企画のLEDを使ったイルミネーションが冬のキャンパスの風景として定着しています。
昨年は、不可能とされた青色LEDを世界ではじめて開発し、量産化に成功した日本人3名の教授がノーベル物理学賞を受賞され、「青」が話題になるニュースに日本中が喜びにあふれました。
青色は、空や海の色で、気持ちを静め心が落ち着くといわれる色です。
看護学部の実習服は、ホワイトベースで袖・ポケットにブルーの花柄ラインをあしらったものになりました。青色には「爽やか・信頼感」というイメージがあり、コミュニケーションをスムーズにする効果があるとされています。本学の看護学部の目標にもぴったりの色が取り入れられました。この実習服を着た新入生の皆さんは、4年間で看護の知識と技術を身につけ、社会に求められる新たな人材として活躍していくことでしょう。
今年は未年。群れをなす羊は、家族の安泰を示し平和に暮らす事を意味しているそうです。皆様にとって幸多い一年となることをお祈り申し上げます。(M.O.)

神女広報 CROSSROADS vol.19 2015年2月発行

編集・発行 学校法人吉学園 学園企画部 学園広報課
〒650-0046 神戸市中央区港島中町4-7-2
TEL:078-303-4790 FAX:078-303-4889
ホームページアドレス <http://www.yg.kobe-wu.ac.jp>
E-メールアドレス gakuenkoho@yg.kobe-wu.ac.jp
印刷 交友印刷株式会社
※「神女広報」へのご意見、お問い合わせなどお寄せください。



学校法人行吉学園



神戸女子大学



神戸女子大学大学院



神戸女子短期大学



神戸女子大学教育センター

vol.19
2015 Winter

「自立心・対話力・創造性」活力あるコミュニケーションで結ぶ

神女広報

CROSSROADS